ぐんま教育フェスタ

「研修観の転換」と「教職の魅力向上」

～「校内研修」と「次世代への教職の魅力の発信」を通して～

群馬県総合教育センター　研究企画係

指 導 主 事　　柏木 純　　住吉 里恵

長期研修員　　塚越 綾（桐生市立西小学校）

小林 武瑠（昭和村立昭和中学校）

Ⅰ.「研修観の転換」が求められている背景

①教育状況の高度化・複雑化

いじめやICT活用、教職員の働き方改革など、課題は複雑化している



②教員の学び＝子供の学び

児童生徒に主体性を求めるなら、まずは、教員自身が学びの主体となる



③現場で使える力を育てる

学んだことを活用することまでを見通して研修を構想する



研修観の転換

④教員の多様性・キャリアへの対応

経験年数や専門性に応じた柔軟な仕組みが必要である



⑤負担感を軽減し、学びを前向きに

「やらされ感」から脱却し、研修を自己成長や学校改善につながるものとして捉える



2.「研修観の転換」に係る昨年度の取組

「研修観の転換」についての捉え

受けさせられる	講師から与えられる	時間・回数の達成	知識・情報の獲得
▽	▽	▽	▽
自らの学びをデザインする	受講者自らつくる	考え始めるきっかけ	考え・捉えの変容
学びの主体	学びのプロセス	研修の価値基準	研修の成果

センターで実施している研修の過程

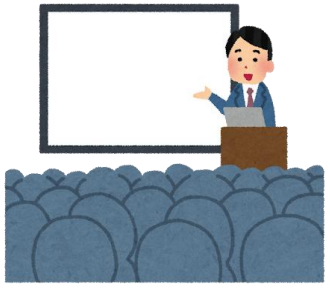
- 土台づくり：期待感や興味、課題意識、参画意識
- 目標設定：課題設定、解決への見通し
- 追究：試行錯誤
- 振り返り：学びや課題の自覚
- 具体化：実践への見通し

（対話と探究）

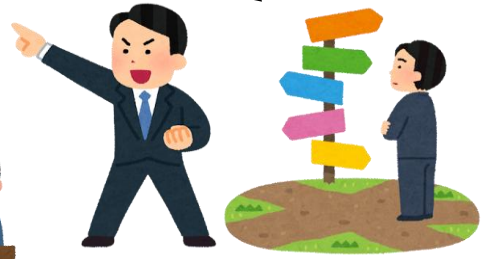
各研修を3つの「型」に分類



ワークショップ型

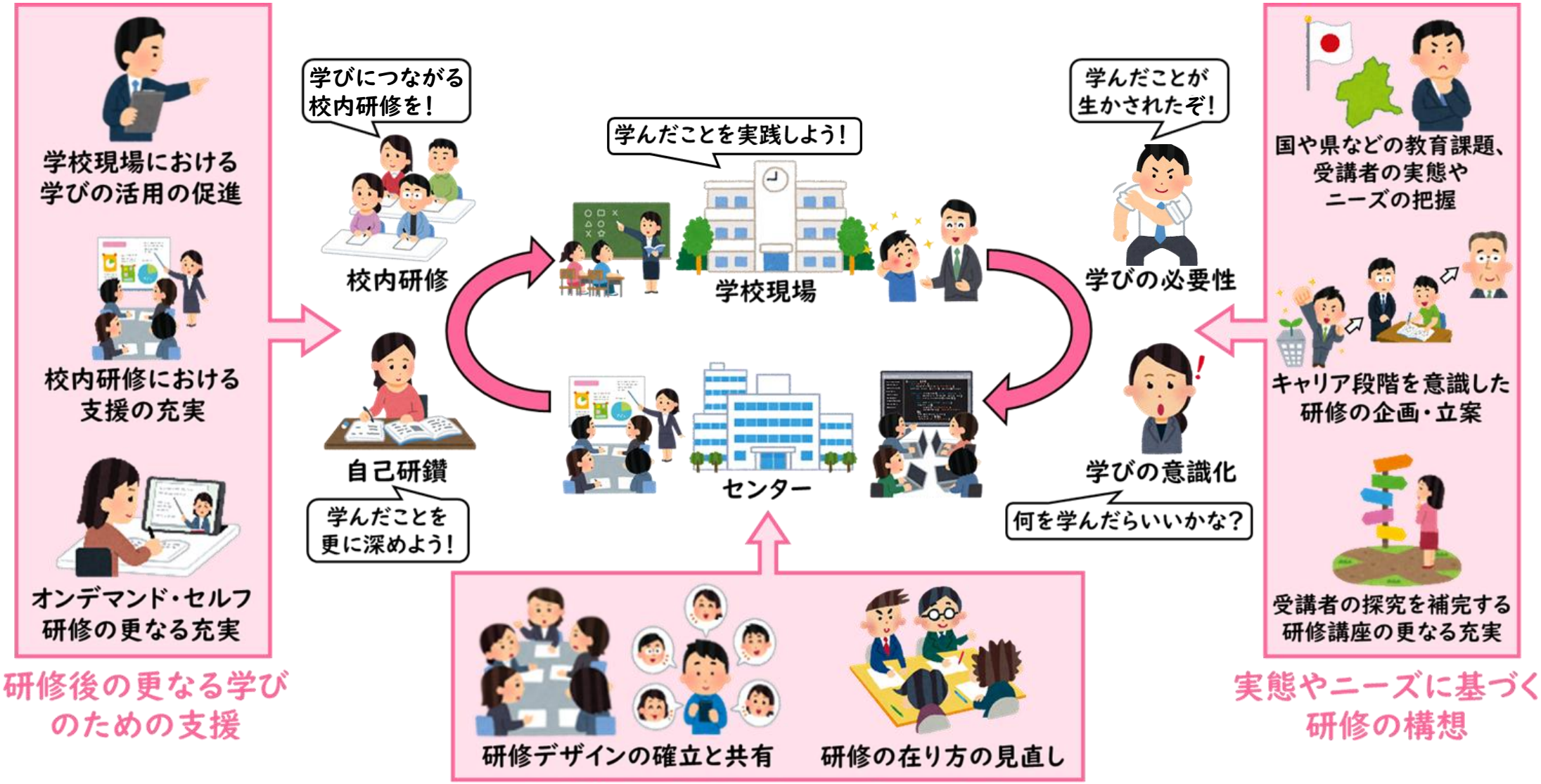


講義・演習型

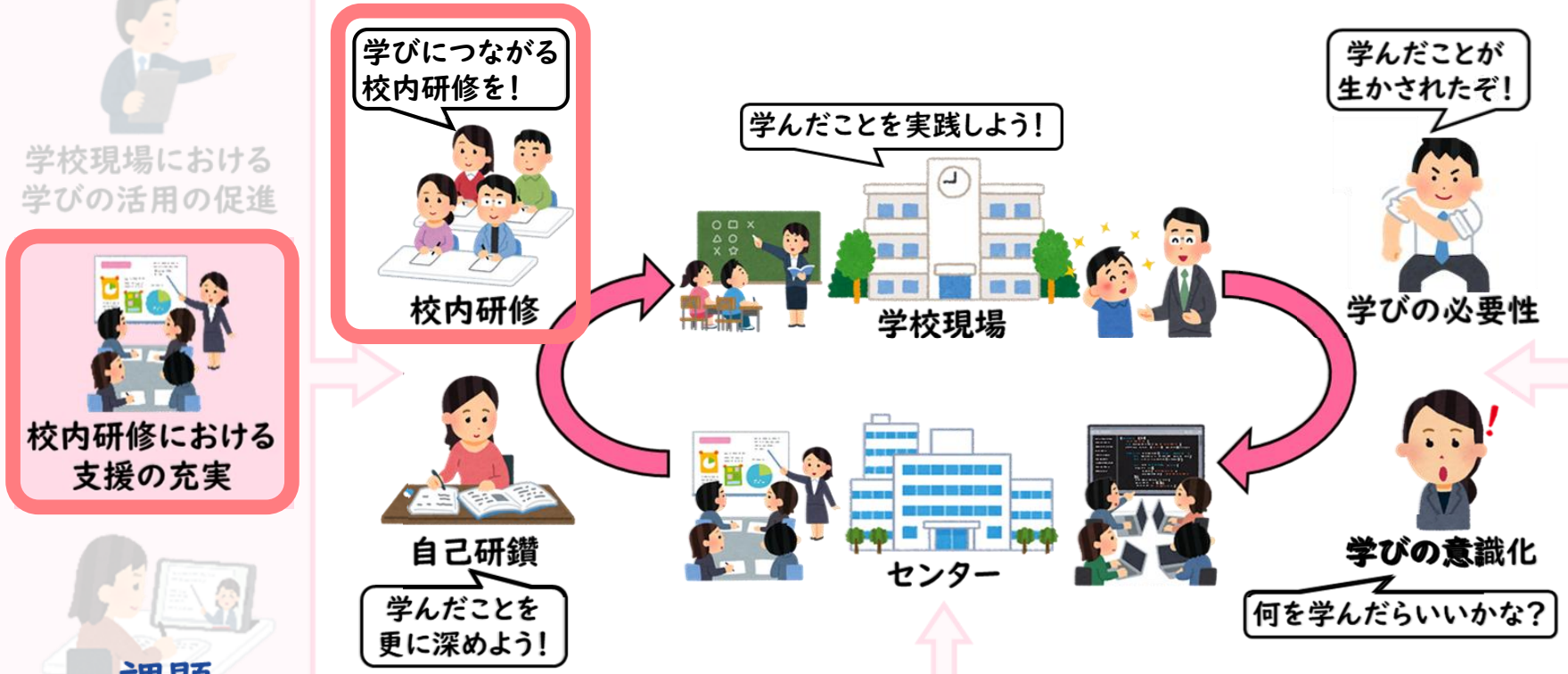


課題探究型

3.「研修観の転換」に係る全体像



3.「研修観の転換」に係る今年度の取組



課題

自身の問題意識と結びつかないまま授業をつくり、公開・協議をして指導を受けるという形骸化が進んでいないだろうか。

(木村2025)

- 「時間的・精神的な負担」
- 実践と結びつかない「形式的・受動的」な研修
- 「個人の学び」より「組織の体裁」の優先

(前田・浅田2020)

確立された仕組みを見直し、校内研修の在り方を問い直す必要がある。

4. 研究の目的（研修観の転換）

校内研修に対する意識の転換を促し、
教師一人一人が自らの課題意識に基づいて
学びを再構築できる機会にするための
具体的な方策を提案する。





5.「教職の魅力向上」が求められている背景

①教育の質の持続的な保障

優れた教員の確保と意欲の維持を通して、教育の質を持続的に保障する



②教員確保への根本的な対応

働きがい・成長実感を含めた魅力づくりが、教員不足の解決策につながる



③誇りとやりがいをもてる環境

教員が誇りとやりがいをもって前向きに働くことができる環境づくりにつながる



教職の魅力向上

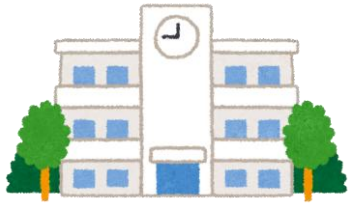
④次世代に選ばれる教職の確立

教職が自身の「自己成長」と「社会貢献」を実感できる職業として示すことは、将来の教員人材を育てる



⑤地域から信頼される学校づくり

教職の魅力向上は、教育の質の向上につながり、地域から信頼される学校をつくることができる



6.「教職の魅力向上」に係る昨年度の取組

現職教員の意識調査（初任者、中堅教諭、管理職）



やりがいや楽しさ



大変さや負担



大切にしてきた
姿勢や考え方

セミナーの実施

- 様々な校種の経験豊富な教員と交流
- 事前アンケートを活用した実践例、体験談
- 初任者のアンケートに基づいた魅力を発信

インターンシップの実施



実際に学んでいる教員の様子を初めて見ることができた！

研修での教員の様子を見学



様々な校種やキャリアの教員との交流は意義があった！

知りたいことをインタビュー

大学での講座実践



教職の「リアル」をもっと知りたい！

教員と少人数で交流



教員が学び続けることの必要性や環境についても勉強になった！

センター研修で学ぶ教員の様子や研修体制の紹介

7.「教職の魅力向上」に係る全体像


次世代を焦点化した
セミナーの開催


インターンシップの
積極的な受け入れ


ぐんま教育フェスタ
の効果的な活用

意識調査を生かした情報発信


研究成果の提供や
情報共有など


学校現場との
事前・事後の情報交換


協議会などにおける
必要事項の協議

関係機関との連携・協力


セミナー等に向けた
積極的な広報活動


メディアやSNSなどの
様々な媒体の活用

先生たちは
とても生き生きと
働いているなぁ。



児童生徒とともに、
自分自身も成長
できる職業だな。





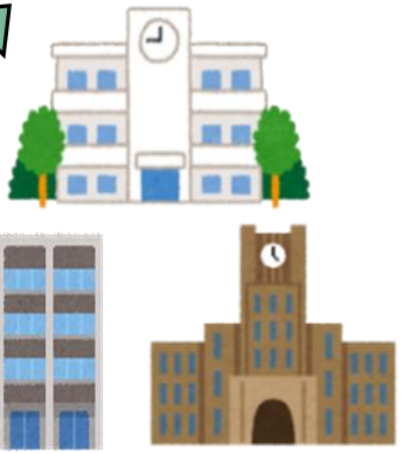


高校生や大学生などの意識調査



現職教員の意識調査

意識調査の整理・分析


教育委員会・学校・
校長会・大学などと
連携・協力できる体制づくり

7.「教職の魅力向上」に係る今年度の取組



意識調査を生かした情報発信



セミナー等に向けた
積極的な広報活動



メディアやSNSなどの
様々な媒体の活用





高校生や大学生などの意識調査

意識調査の整理・分析



教員志望の低下の要因として…
・教員の仕事への不安
・自身の力量不足の自覚

杉原（2024）

正しい職業理解につながる教職に関する情報を伝えていくことが必要である。

8. 研究の目的（教職の魅力向上）

教職の魅力を伝えるセミナーや、

高校生のインターンシップを通して、

次世代が教職の魅力を再認識できるきっかけを創出し、

今後の取組に向けた成果と課題を明らかにする。





先行研究から見えた研修の課題

研修観の転換

研修の必要性



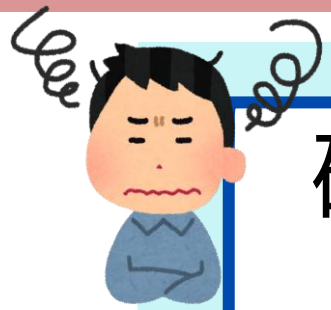
〇知識・見識の
アップデート

〇授業力・指導力の向上

〇全ての領域での
研修・学びは必要



研修参加の障壁



▲時間・心の余裕がない

▲学校を空けられない

▲研修内容がミスマッチ

▲予算の関係



知識や見識のアップデート
授業力の向上＝必要なもの

時間や内容の不一致等
→積極的参加への様々な障壁

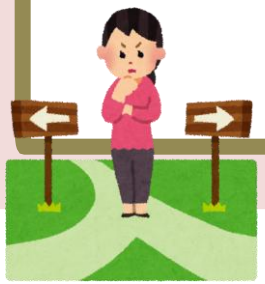
先行研究から見えた研修の課題

研修観の転換

多様なニーズ



・すぐに役立つ実践的な学び
・教員が関心をもつ共通の課題
・属性によるニーズの差異
・経験年数と学びの意欲の関係



属性、年齢、立場の違い
→多様なニーズ

研修形態の選択



【オンデマンド研修】

○自分のペースで学習	▲フィードバック欠如
○学習機会の増加	▲教員間の交流なし
○反復視聴可能	▲集中力維持が困難

課題探究型

ワークショップ型

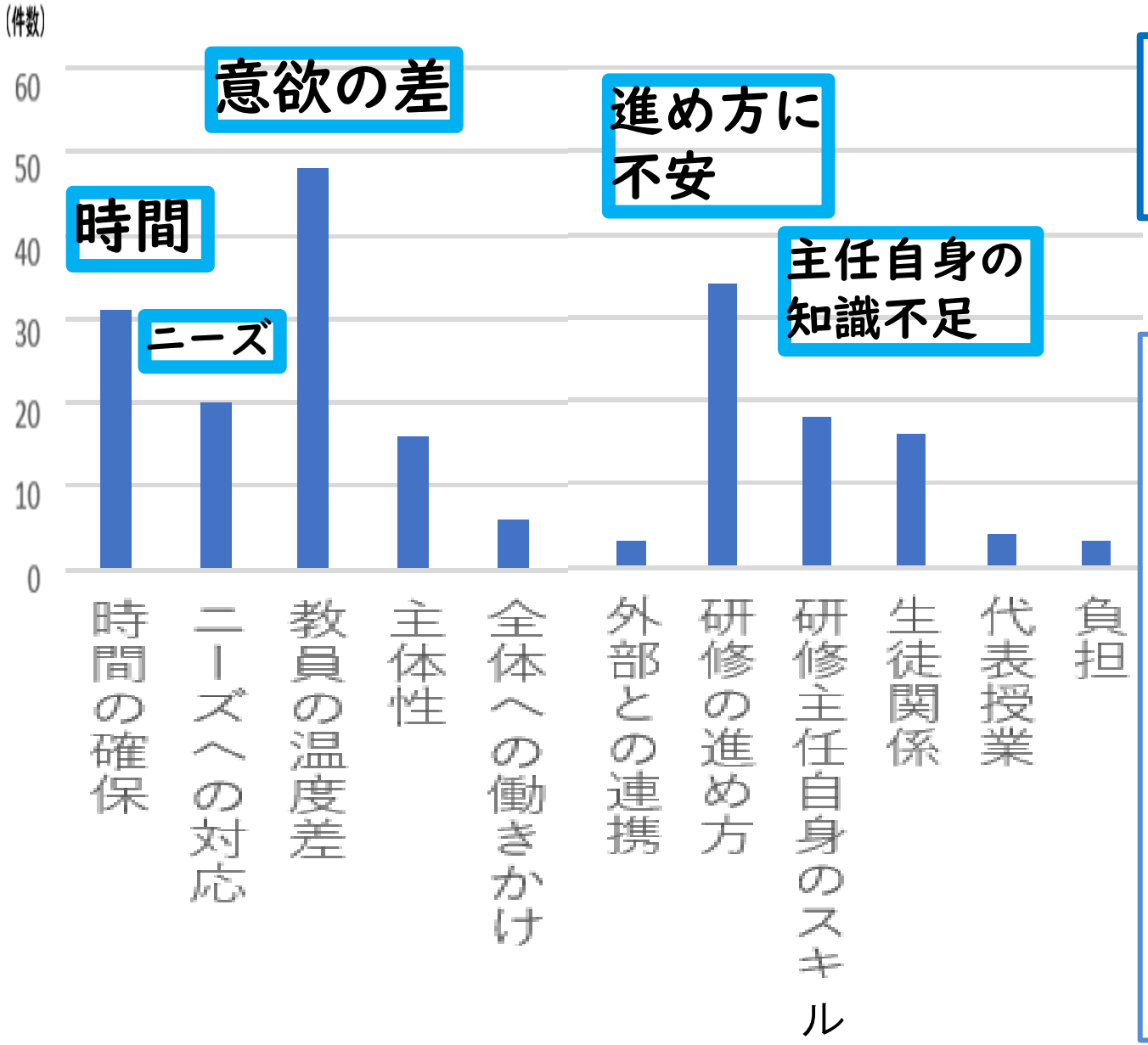
講義・演習型



研修形態
→メリット、デメリット
→人によって異なるニーズ

研修主任（６９名）が考える校内研修の課題

研修観の転換



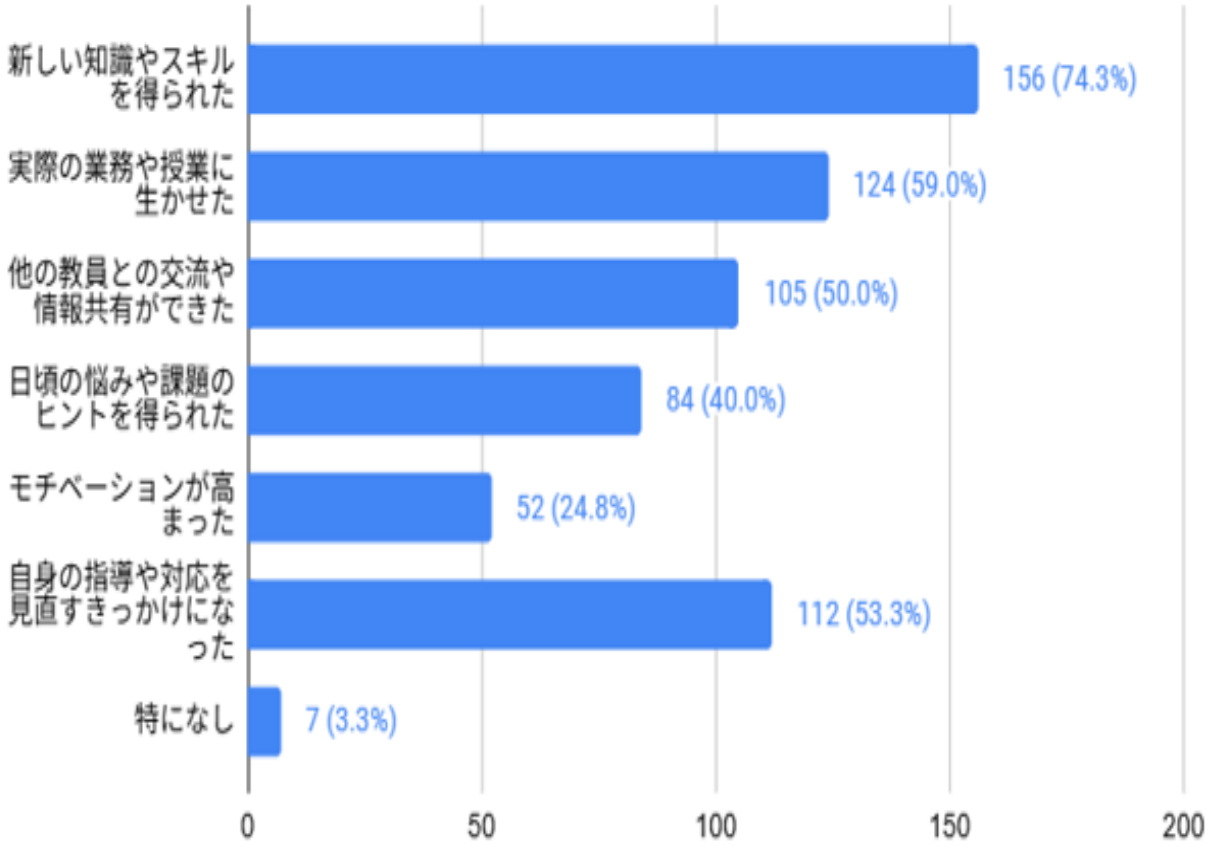
「研修主任研修」に参加した教員が考える

「校内研修の課題」

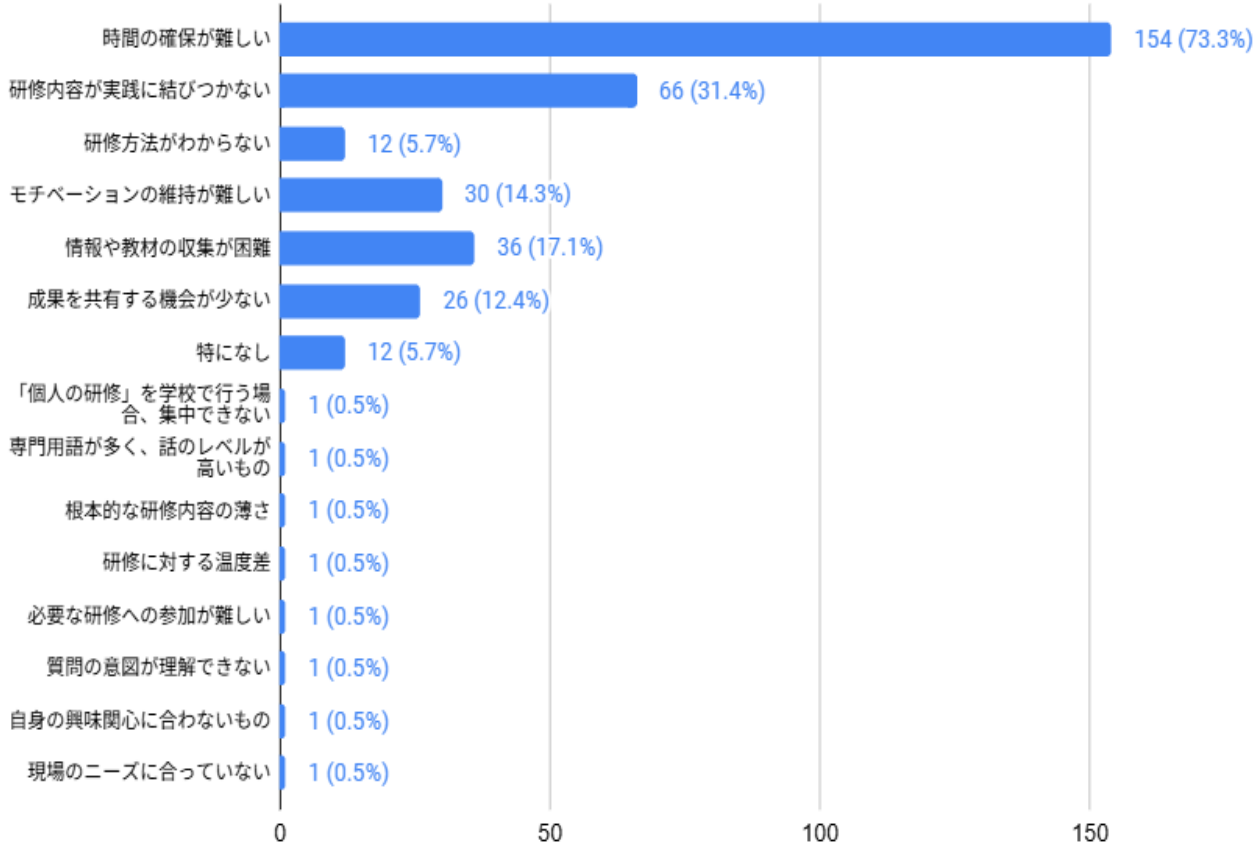
- 時間の確保が難しい
- 教員の研修に対する意欲の差が大きい
- 参加教員のニーズに対応できていない
- 研修の進め方に不安がある
- 研修主任自身のスキルが不足している

教員（２１０名）が考える校内研修の成果と課題　研修観の転換

「研修が役に立った」「受けてよかった」と思う理由



研修を進める上で、課題と感じること



新たな知識が得られた
実践に生かせた
他の教員との交流が図れた

→ 大切！有効！

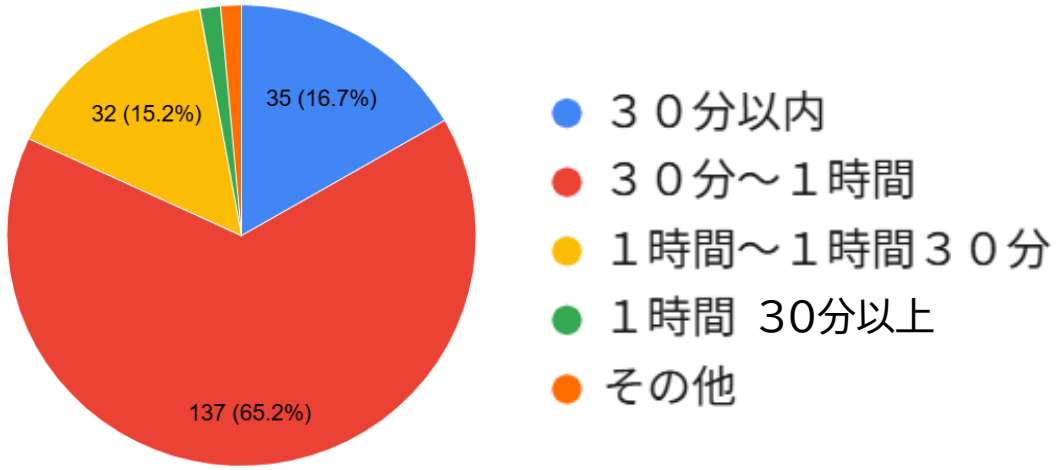
時間の確保が難しい
ニーズに合わない
情報収集が困難

→ 負担

理想の校内研修

研修観の転換

妥当な時間



必要な研修内容



妥当な研修時間

↓

１時間以内

必要な内容

- ICT関係
- 授業実践、準備
- 児童や生徒への指導

など



時間



ニーズの不一致、　進行の不安・負担

研修支援アイテム

知識の習得　＋　実践の振り返り　＋　対　話



教員同士の関係が深まる！

研修に対する捉えが変わる！



校内研修支援アイテムの作成

研修観の転換

まなびStyle



特別な準備が不要

共通するニーズ

短時間で学べる

３０分間研修パッケージ

３０分で学びを深める
「非認知能力」

３０分で学びを深める
「学習評価の在り方」

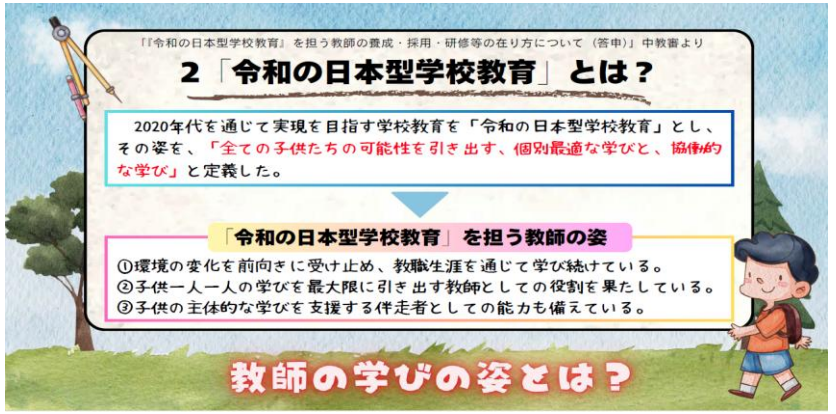
３０分で学びを深める
「主体的・対話的で深い学び」

３０分間で学びを深める
「生徒指導の基本」

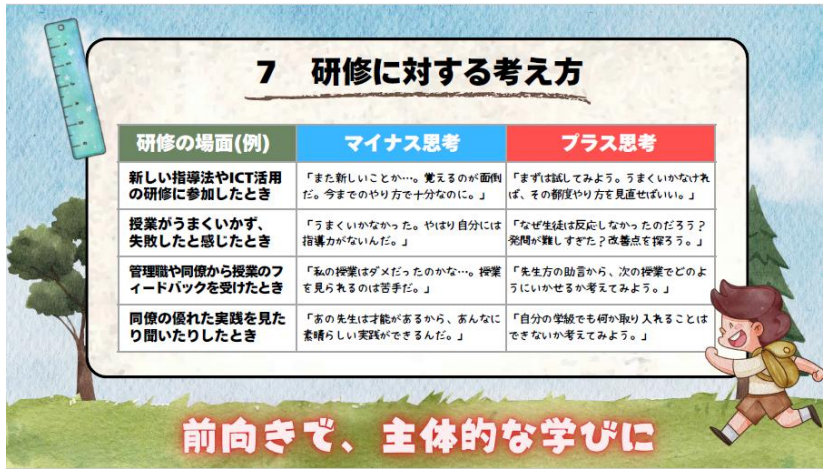
まなびStyleの作成

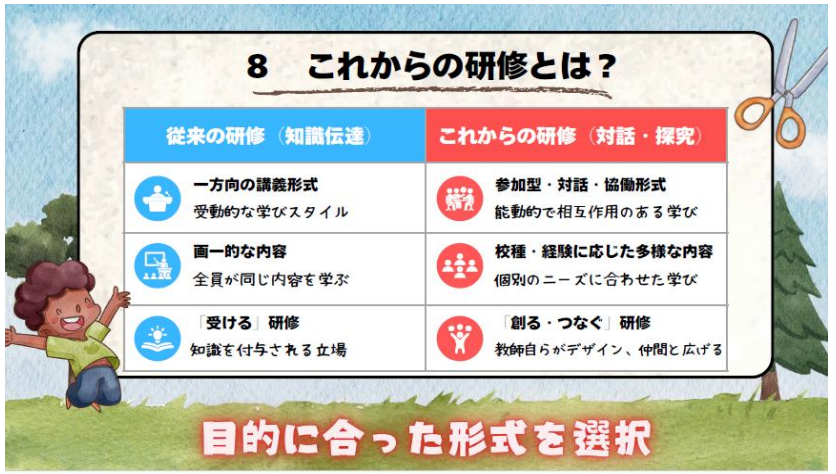
研修観の転換













- 主体的で気軽な校内研修へ！「研修の捉え方」について提案
- 研修形態や場の設定などについてのアイデアを紹介
- 年度当初の校内研修での活用が理想

まなびStyle
～新たな研修のかたち～

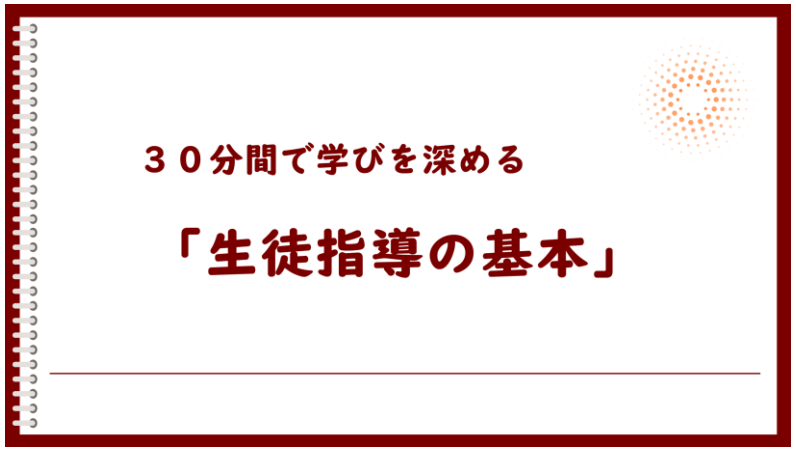


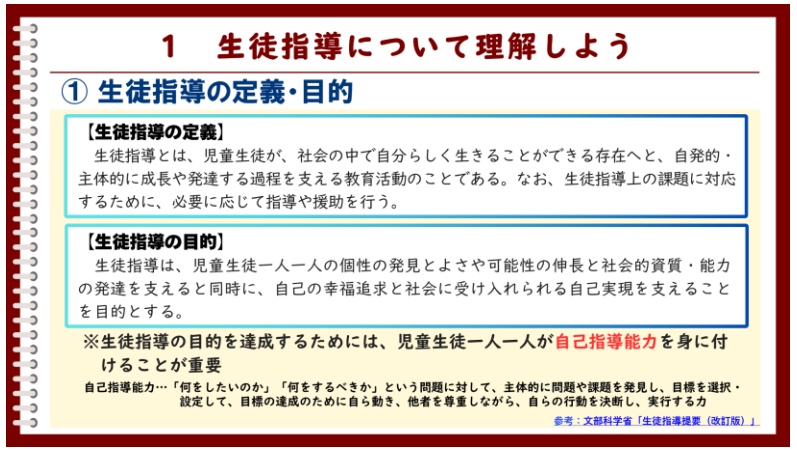
群馬県総合教育センター
長期研修員　小林 武瑠　塚越 綾

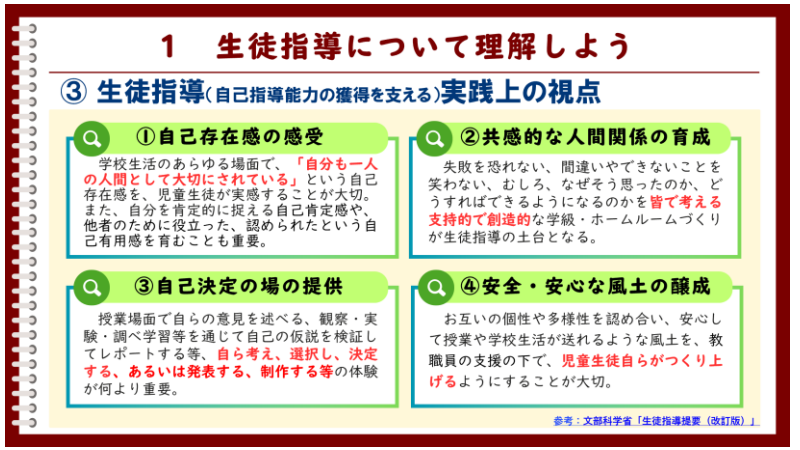


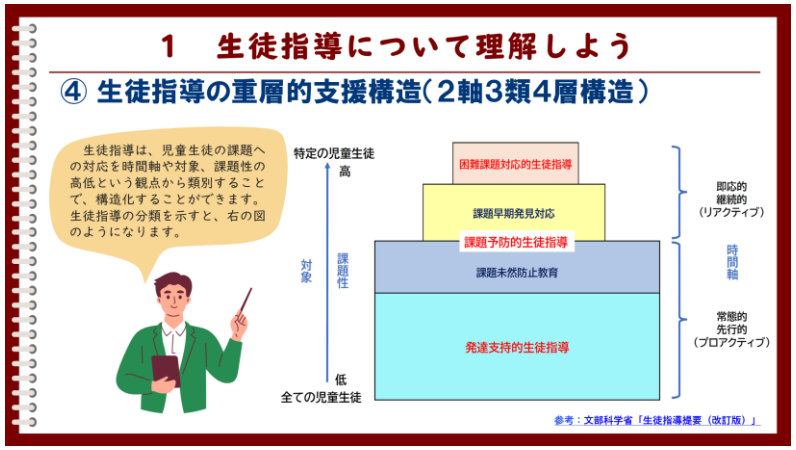
３０分間研修パッケージ

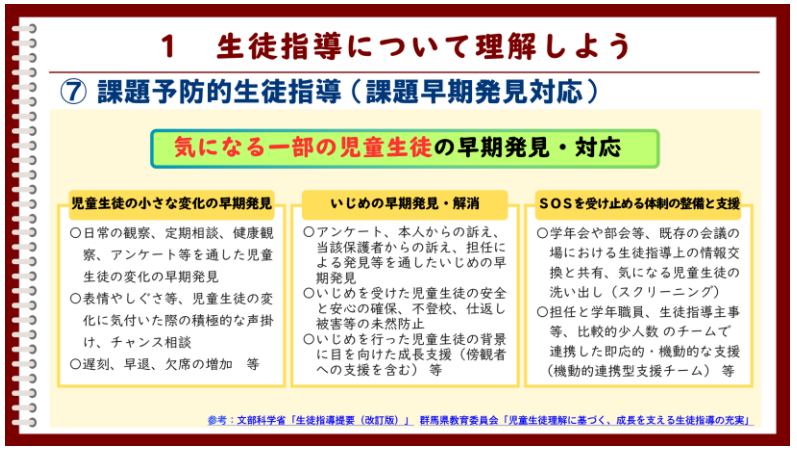
研修観の転換

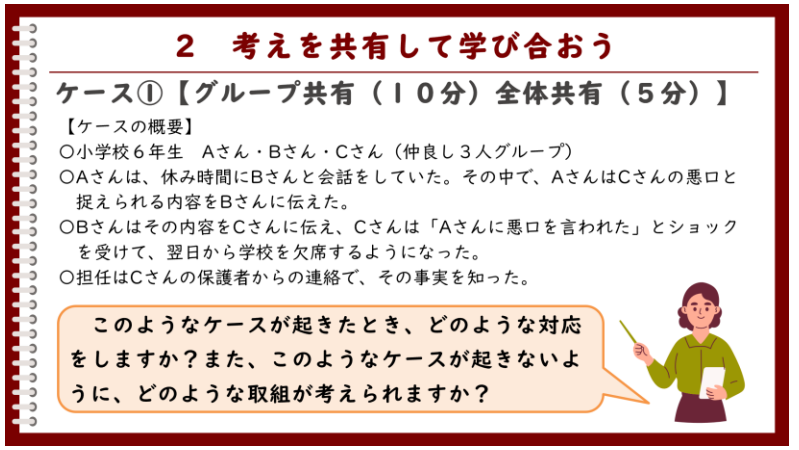












- 現状について意見交流→教育課題やテーマについて必要な知識を習得
  →今後の実践について意見交流という過程で研修が進む
- 資料の説明は音声＝進行役の負担が軽減される

３０分間で学びを深める

「生徒指導の基本」

研究協力校での実践

研修観の転換

３０分間研修パッケージを活用した実践

研究協力校　桐生市立西小学校
昭和村立昭和中学校
昭和村立大河原小学校

３０分間で学びを深める
「生徒指導の基本」

３０分で学びを深める
「主体的・対話的で深い学び」

１回目の研修

⇒長期研修員が進行

２回目以降の研修

⇒研修主任が進行

誰でも進行できる校内研修に！

研究協力校での実践

研修観の転換

Padlet（オンライン用のデジタル掲示板）の活用

研究協力校　　桐生市立西小学校
昭和村立昭和中学校

必要な資料を提示





全員の考えを共有

他者の考えに気付く！
いつでも資料を見直せる！

アンケート結果（まなびStyle）



研修観の転換

- 内容、構成の分かりやすさ
- 今後、教員の研修で活用したいか
- 研修づくりの方向性を考えるヒントとなったか

→ 満足・ほぼ満足 100%

- 新たな学びの姿がイメージできるか
- 目的や意義を改めて考えるきっかけになるか

→ 満足・ほぼ満足 90%以上

- 「研修は自分で作るもの」と捉える意識の高まり

→ 課題が残る

- 視覚的に意味を捉えやすい言葉を使うとよい
- スライドのデザインと音声が不釣り合い
- 実践に落とし込むための具体的な例が入るとよい



アンケート結果
（３０分間研修パッケージ）

３０分間で学びを深める
「生徒指導の基本」

研修観の転換

研修に参加した教員の意見

- 30分の時間設定
- 構成、分量、見やすさ
- 実践を振り返る機会設定

⇒ 満足・ほぼ満足 95%以上

- 今後役に立つ内容
- 意見交換の機会設定

⇒ 満足・ほぼ満足 85%以上

- 研修の満足度

⇒ 満足・ほぼ満足 85%以上

- 今後の活用への意欲
- 内容の分かりやすさ

⇒ 課題が残る

研修主任の意見

資料作成、
情報収集の負担軽減

短時間でも
効果的



今後も
活用し
たい

研修の在り方
考え直すきっかけ

成　果

支援アイテムの作成
→校内研修における時間や資料準備の
　負担軽減につながった
→対話、実践の振り返り等、満足度の
　高い研修の実現につながった



校内研修での実践＋使用感についてのアンケート調査
　→改善策の検討

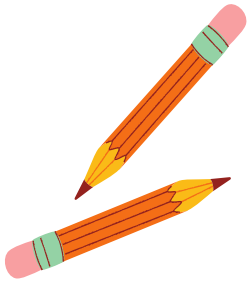
課　題

多様な内容における「30分間研修パッケージ」の作成が必要

協力校との連携方法について検討が必要



まとめ



・研修の必要性は認識されているが、負担感やニーズの不一致が参加の障壁となっている

・校内研修では、時間確保、内容精選に加え、進行面についての課題も見られる

・研修支援アイテムの活用は、負担軽減と主体的な研修を促す可能性を示した

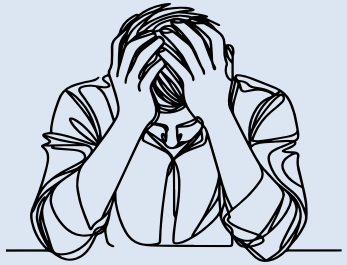


先行研究から見えた研修の課題と取組　「教職の魅力向上」

課題　教員志望者の減少

①「ブラック職場」というイメージ

- 労働環境
- 指導上の課題
- ネガティブな報道など



②人口の減少

- 労働力人口が減少する中、新たな教員志望者を確保することは、教育の質を確保するという意味合いから喫緊の課題である



群馬県：令和8年度採用倍率2.9倍（低下傾向）

参考：群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）

取組　教職に関する情報発信

①　高校生や大学生など

- 教職についての情報発信



②　次年度より教壇に立つ方

- 教員としてのスタートに向けて、必要な知識や考え方を学ぶ機会

具体的な取組



「未来を創る教員養成セミナー」



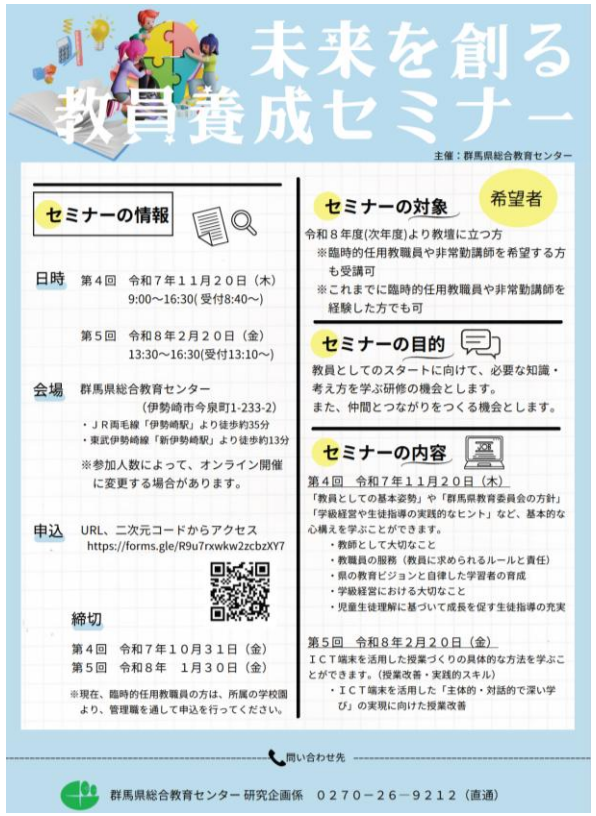
「インターンシップ」

広報活動（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

募集チラシ（第1回～第3回）



募集チラシ（第4回・第5回）



Instagramや報道機関の活用





報道機関：NHK、上毛新聞

「未来を創る教員養成セミナー」の情報を積極的に発信

今年度の取組①（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

次世代（高校生や大学生など）への取組

第 １ 回



教師の仕事について知る

実施日：６月２８日（土）
受講者：３６名

第 ２ 回



授業づくり･模擬授業体験

実施日：７月３１日（木）
受講者：２５名

第 ３ 回



現職教師との交流

実施日：８月７日（木）
受講者：５４名

次世代（高校生・大学生など）に向けて、教職の魅力を発信

次年度より教壇に立つ方への取組

第４回　実施日：１１月２０日（木）　受講者：６９名



学級経営における大切なこと



児童生徒理解・生徒指導の充実

第５回　実施日：２月２０日（金）（ICT端末の活用）

教員としてのスタートに向けて、学びの機会を確保

アンケートの考察①（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

「次世代（高校生や大学生など）」回答者：１１５名

① 広報はチラシとWebが有効



② 参加しやすい時期は「夏休み中」



③ 理想のセミナー時間は「半日」



※内容によっては１日必要という意見もあった。

④ 参加したい研修テーマは「現役教師との座談会」



※現場の教員から直接話を聞きたいというニーズが最も高い

⑤ セミナー対象者の焦点化

分けない方がよい



様々な視点から意見視野が広がる

分けた方がよい

- 大学生：教員採用試験対策
- 高校生：仕事内容や進路

アンケートの考察②（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

「次年度より教壇に立つ方」回答者：６６名

① 満足度に対する主な理由

よかった点

〇同じような仲間と交流できた
〇次年度、働く人と出会えた
〇不安感が少なくなった
〇必要な知識を学ぶことができた



課題点

▲大学の講義や採用試験の勉強で学んでいた内容があった
▲以前のセミナー内容と似ていた
▲希望する校種の話がなかった

② 今、学びたいこと・知りたいこと

「授業づくりのスキル」が最も多く、次いで「保護者対応や校内でのコミュニケーション」が多かった



学校現場で、すぐに活用できる**実践的な内容**を求めている

今年度の課題（未来を創る教員養成セミナー）「教職の魅力向上」

講義形式が多い

高校、特別支援学校に関係のある講義が少ない



内容が重複しているものがある

講師が固定されている
（校種が限られる）

次年度の素案①（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

「未来を創る教員養成セミナー」（次世代）

A【主に中学生・高校生対象】「先生の仕事って楽しそうだな」「先生の仕事について知りたいな」という関心を高める機会
B【主に高校生・大学生・社会人対象】「群馬県の教員になりたいな」「教職課程でしっかり学ぶことが大切だ」という意欲を高める機会

開催時期	対象	講義名	具体的な内容	時間	講師・支援員
７月後半～８月頃	A	○先生になるには・なるまで	・教職につくまでの学び方について知る ・教員との座談会~進路決定のきっかけ・教職に就くまで~ （異校種、進路が異なる教員数名の歩んできた道について聞く。）	３０分（講義・クイズ） ３０分（１５分×２）	講師１名 異校種の教員数名（社会人経験[illegible]）
		○教員の一日をのぞいてみよう	・小学校、中学校、高等学校の[illegible] （１０分紹介→５分質問→次の[illegible]		[illegible]特支、[illegible]護の
	B	○教員の一年をのぞいてみよう	・小学校、中学校、高等学校の[illegible]		[illegible]員１名ずつ
		○教師を目指すうえで大切なこと	・教員としての資質、大切にし[illegible]		
		○群馬県の教育課題	・群馬県が抱えている教育課題[illegible]		
		○生徒指導・保護者対応	・事例を提示し、生徒指導、保[illegible]		[illegible]４名）
	AB	○どんな先生になりたいか	・グループワークで、理想の先[illegible] （ブレーンストーミング→KP法→ワールドカフェ）		
		[illegible]教師という生き方 [illegible]やりがい・課題」	・教職の魅力ややりがい、課題について考える（グループワーク） 教師という生き方について自由に質問	１５分 ３０分	異校種・キャリア段階が異なる教員
		○授業つ[illegible]りについて ○授業づくり＆模擬授業	・授業の作り方について知る→３～4人グループで授業づくり ・練習→模擬授業（グルーピングの工夫によりAB合同可）	全日（前半） 全日（後半）	異校種の教員（長期研究員）

○対象者を２つのグループに分類
Ａ：中学生、高校生
Ｂ：高校生、大学生、社会人

○開催時期は、７月後半～８月の夏休み中

次年度の素案①（未来を創る教員養成セミナー）　「教職の魅力向上」

「未来を創る教員養成セミナー」（次世代）

A【主に中学生・高校生対象】「先生の仕事って楽しそうだな」「先生の仕事について知りたいな」という関心を高める機会
B【主に高校生・大学生・社会人対象】「群馬県の教員になりたいな」「教職課程でしっかり学ぶことが大切だ」という意欲を高める機会

開催時期	対象	講義名	具体的な内容	時間	講師・支援員
7月後半～8月頃	A	○先生になるには・なるまで	・教職につくまでの学び方について知る ・教員との座談会~進路決定のきっかけ・教職に就くまで~ （異校種、進路が異なる教員数名の歩んできた道について聞く。）	３０分（講義・クイズ） ３０分（１５分×２）	講師１名 異校種の教員数名（社会人経験理想）
		○教員の一日をのぞいてみよう	・小学校、中学校、高等学校の教員による１日の仕事紹介＆質問タイム （１０分紹介→５分質問→次のブース）	５０分（１５分×３）	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員１名ずつ
	B	○教員の一年をのぞいてみよう	・小学校、中学校、高等学校の教員による一年の仕事内容＆質問タイム	７０分（２０分×３）	小学校、中学校、高校の教員１名ずつ
		○教師を目指すうえで大切なこと	・教員としての資質、大切にしたい考えなどを知る	２０分	講師１名
		○群馬県の教育課題	・群馬県が抱えている教育課題について知る	２０分	講師１名
		○生徒指導・保護者対応	・事例を提示し、生徒指導、保護者対応についてロールプレイで体験する	４５分（２０分×２）	講師２名（参加者数により４名）
	AB	○どんな先生になりたいか	・グループワークで、理想の先生について考える （ブレーンストーミング→KP法→ワールドカフェ）	４５分	担当指導主事
		○教師という生き方 「魅力・やりがい・課題」	・教職の魅力ややりがい、課題について考える（グループワーク） 教師という生き方について自由に質問	１５分 ３０分	異校種・キャリア段階が異なる教員
		○授業づくりについて ○授業づくり＆模擬授業	・授業の作り方について知る→３～4人グループで授業づくり ・練習→模擬授業（グルーピングの工夫によりAB合同可）	全日（前半） 全日（後半）	異校種の教員（長期研究員）

○対象者のニーズに合う内容
○内容が重複しないように選定

○様々な校種、キャリア段階など、
講義の目的に応じた講師を選定

次年度の素案②（教員StartUpセミナー）　「教職の魅力向上」

「教員StartUpセミナー」（次年度より教壇に立つ方）

【対象者】

〇次年度より教壇に立つ方（大学４年生、社会人）

〇臨時的任用教職員、非常勤講師、再任用の方も受講可

開催時期	講義名	具体的な内容	時間	講師・支援員
１１月 ～ ２月頃	〇保護者対応の基本と実際	・保護者対応における課題や大切にしたいことを知る ・教員の体験談＆質疑応答	２０分 ３０分	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員
	〇生徒指導の基本と実際	・生徒指導における課題や大切にしたいことを知る ・教員の体験談＆質疑応答	２０分 ３０分	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員
	〇新学期　すぐに役立つ教員術①	・学級開きや掲示物の準備などについて、春休み中の仕事の流れを知る ・教員への質疑応答	４０分	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員
	〇新学期　すぐに役立つ教員術②	・職員会議の内容や、校務分掌について知る ・教員への質疑応答	４０分	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員
	〇授業づくりについて	・単元を通じた授業の作り方について知る ・３～4人グループで授業づくり	３０分 ６０分	小学校、中学校、高校、特支、養護の教員
	〇授業におけるICT活用	・授業における実践を知る ・授業でのICT活用について体験する	３０分 ６０分	講師数名（情報関係）

〇授業づくりや保護者対応など、学校現場ですぐ活用できる内容

〇様々な校種の受講者に対応できるように講師を選定

今年度の取組（インターンシップ）　「教職の魅力向上」

実施校：高崎女子、県立太田、伊勢崎清明、伊勢崎、伊勢崎商業



研修の見学



教師の仕事



インタビュー

インターンシップを通じて、教職の魅力を発信

アンケートの結果（インターンシップ）　「教職の魅力向上」

「インターンシップ」回答者：２１名

教師という一つの選択肢について深く考えることができた

実際の現場に行くよりもゆっくりインタビューすることができた



今はまだ明確な将来の夢が決まってないけれど、気持ちが少し教師に傾いた

先生たちがよりよい授業のために一生懸命勉強している姿を見ることできた

学校現場では体験できない取組

次年度の計画シート（インターンシップ）　「教職の魅力向上」

インターンシップ計画シート（高校入力用）

1．学校名・担当者情報

学　校　名	
担　当　者	
連絡先（電　話）	
連絡先（メール）	

担当者
生徒情報

2．参加生徒情報

氏　名	学年	性別	教職志望有無（※○をしてください）	学びたいテーマなど（※ある場合は入力）	掲載承諾（※○をしてください）
			有　・　無		可
			有　・　無		
			有　・　無		

※当センターでは、研究成果報告書やSNS（イ
　掲載します。つきましては、撮影した写真を使
※枠が足りない場合は、枠を挿入してください。

日程・時間

3．日程・時間（希望）

日　付	時　間（※○をしてください）
月　日（　）～ 月　日（　）	・1日　・半日（午 ・その他（

4．インターンシップの目的（学校として
※生徒にどのような力を付けたいか、何を期待し

目
（例：探究活動、就業体験）

目的
（学校のねらい）

5．事前打合せ希望日

希　望	日　付	時
第1希望	月　日（　）	
第2希望	月　日（　）	

事前打合せ

6．希望する活動内容　※希望通りにならない場合もあります

※【R7研修内容一覧】から選択して、番号を入力してください。

【R7研修内容一覧】
①教師に求められる力　②教師になるまでに必要な
⑤児童生徒・保護者との信頼のつくり方　⑥授業のつく
⑧ミニ・アイスブレイク開発　⑨私が目指す教師像　⑩職

※インターンシップ依頼文書とあわせてご提出ください。

希望する
活動内容

“目的の共有と計画”

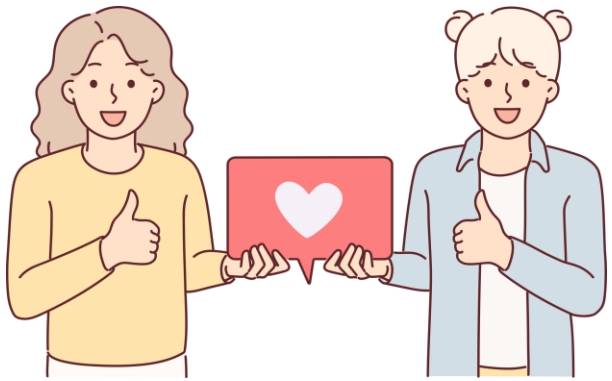
成　果

広報活動を積極的に行ったことで、昨年度よりも参加者を増やすことができた



「未来を創る教員養成セミナー」

教職についての情報を発信したことで、教職への関心を高めることにつながった



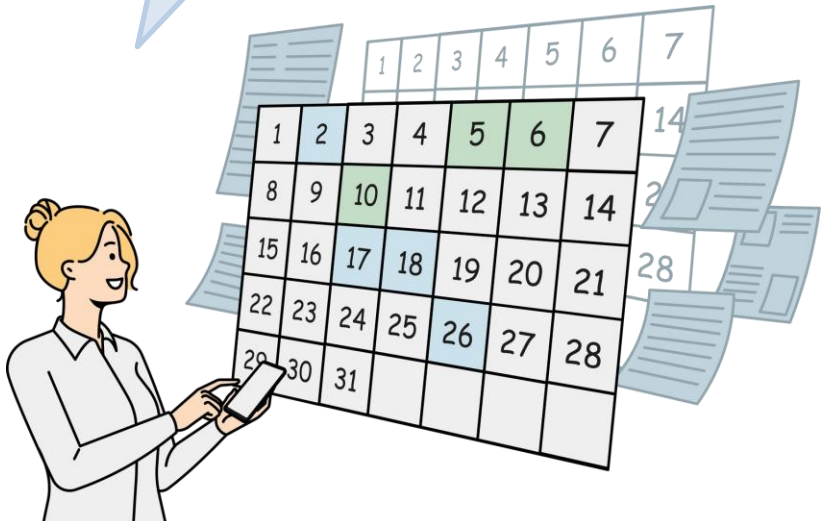
「未来を創る教員養成セミナー」・「インターンシップ」

今年度の課題を踏まえ、次年度の素案などを作成することができた



課　題

広報活動や外部機関との連携をより効果的に進めるために、年間を見通した計画が必要がある



「未来を創る教員養成セミナー」

目的の共有や計画などに時間を要したため、高校側と事前に情報共有を図る必要がある
（計画シートの活用）



「インターンシップ」

まとめ

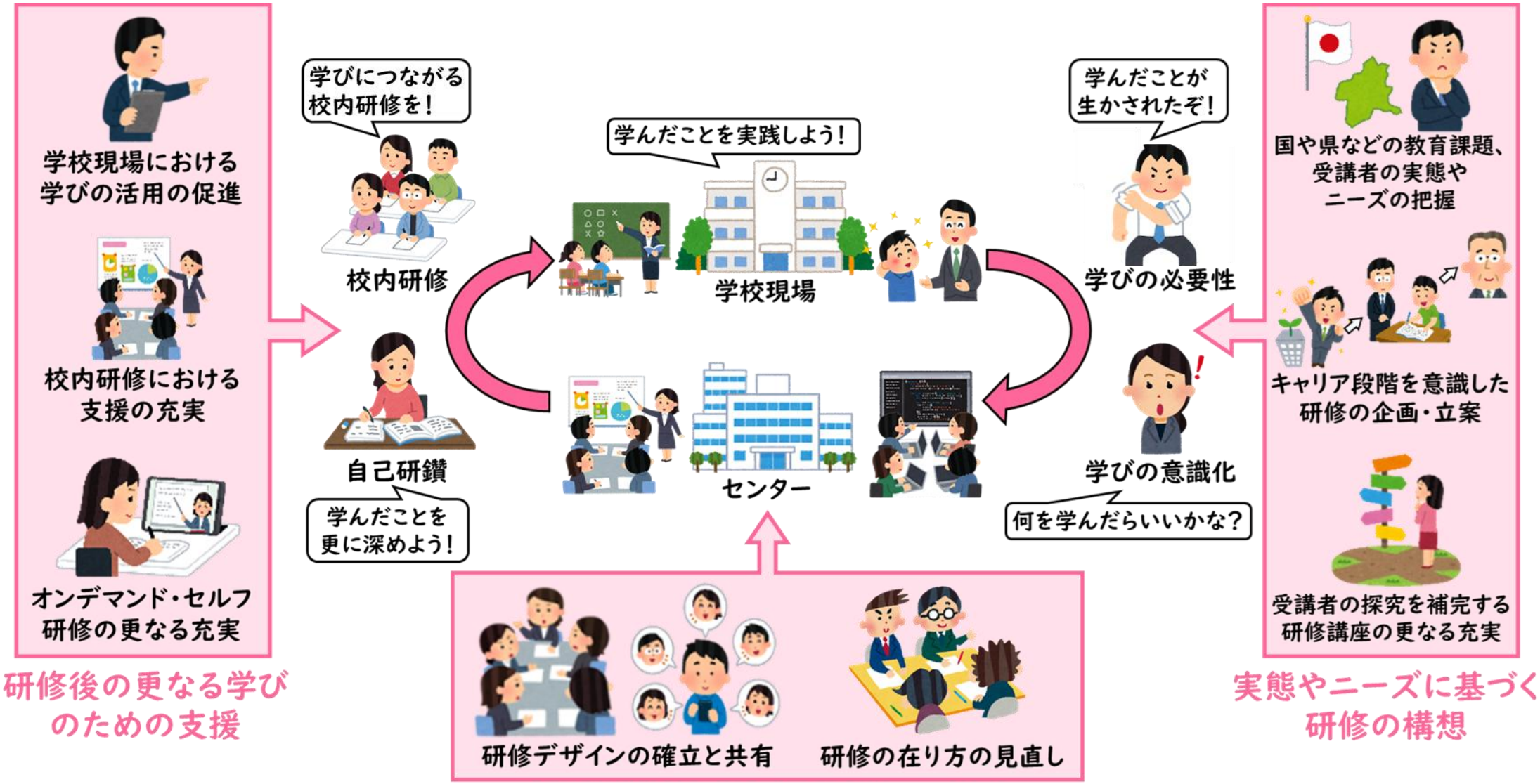
「教職の魅力向上」

- 「未来を創る教員養成セミナー」や「高校生インターンシップ」を通して、教職の魅力を発信してきた
- 今年度明らかになった成果と課題を踏まえて、計画的な取組を実施していく

“教職を「目指したい」と思える人材の育成”



今後の方向性（研修観の転換）



今後の方向性（研修観の転換）

研修での学びがもたらした指導
実践の変化を教員の姿から分析

学びにつながる
校内研修を！



校内研修

学んだことを実践しよう！



学校現場

学んだことが
生かされたぞ！



学びの必要性

校内研修で現場の
教員と連携



自己研鑽

学んだことを
更に深めよう！



センター



学びの意識化

何を学んだらいいかな？

当センターで実施する
研修の受講者と連携

きっかけとなった研修の「過程」や
「手立て」の有効性の要因

今後の方向性（教職の魅力向上）



次世代を焦点化した
セミナーの開催



インターンシップの
積極的な受け入れ



ぐんま教育フェスタ
の効果的な活用

意識調査を生かした情報発信



研究成果の提供や
情報共有など



学校現場との
事前・事後の情報交換



協議会などにおける
必要事項の協議

関係機関との連携・協力



セミナー等に向けた
積極的な広報活動



メディアやSNSなどの
様々な媒体の活用

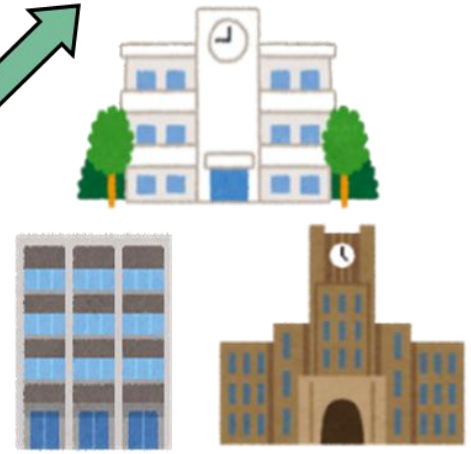




高校生や大学生などの意識調査

現職教員の意識調査

意識調査の整理・分析



教育委員会・学校・
校長会・大学などと
連携・協力できる体制づくり

今後の方向性（教職の魅力向上）


次世代を焦点化した
セミナーの開催


インターンシップの
積極的な受け入れ


ぐんま教育フェスタ
の効果的な活用

意識調査を生かした情報発信

セミナーやインターンシップなどの更なる充実

中学生も対象として、それぞれの発達段階の意識やニーズを整理・分析

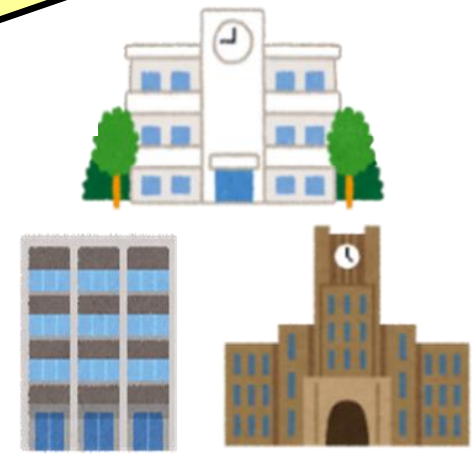
現職教員が感じている「やりがい」についても焦点化

「児童生徒の成長」だけでなく、「自己の成長」や「創造性」、「同僚性」などの視点を明確化





意識調査の整理・分析



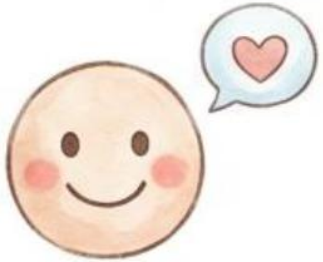
教育委員会・学校・
校長会・大学などと
連携・協力できる体制づくり

ご清聴ありがとうございました

ワークショップの進め方



①簡単な自己紹介



②進行役と記録役の選出



記録係の方は、各グループに用意されたボードを使用してください。

③理想の教師像について語る

20分程度



④意見共有



あなたが考える理想の教師像は？



高校生・大学生などの皆さんの感想を発表

研究発表を参観して感じたことなど

高校生・大学生などの皆さんの『生の声』を共有します！

研究企画係　発表②



ポスターセッション
＆
研修支援アイテムお試し体験



会場内は自由にご覧いただけます。
研修支援アイテムを実際に体験していただくことも可能です。
ぜひお試しください



疑問などありましたら
お気軽にお声掛けください。